

明治35年 舟形駅開業

明治35年7月21日に、奥羽本線が舟形駅へと達し、舟形駅が開業しました。当時は全町民をあげその開通を祝ったと言われています。それまでは、人力・馬力による乗り物がほとんどだったため、一度に多くの人々を輸送できる鉄道の開通は人々の生活に大きな影響を与えました。

明治36年 舟形〜新庄間開通

木友炭鉱をはじめとする舟形町の亜炭産業は、多くの鉱業家が進出し、大正以降の町の発展に大きく影響を及ぼしました。旧藩時代から宿場町として、商業で栄えた舟形は、亜炭の出荷で賑わう舟形駅とともに近隣の商店も一層の繁盛をみせました。



舟形駅が開業120周年を迎えました

令和4年7月21日に舟形駅は開業120周年の節目を迎えました。この長い歴史の中で舟形町民にとって舟形駅はどのような役割を担ってきたのか、歴史の分岐点をピックアップして紹介します。



昭和31年 舟形駅貨物ホーム拡張落成

舟形駅に貨物ホームが拡張落成され、当時の舟形駅は1日あたり550人の乗客、発着貨物51トンにもほり、町の産業振興の基盤と住民の生活を支える重要な役割を担っていました。

昭和50年 貨物取扱廃止



昭和53年 舟形駅無人化

舟形駅が無人駅となるきっかけは昭和49年の秋田鉄道管理局による、奥羽南線の営業体制の近代化と称した「舟形駅無人駅（停留所）および貨物取扱業務廃止」の協力申し出でした。町民一丸となり無人化反対運動を続け、唯一無人化を阻止し続けていましたが、時代の流れには抗えず、乗客の安全設備や待合室の整備などの条件の提示のもと、昭和53年2月に無人駅となりました。

平成5年 現在の駅舎完成

平成5年4月、舟形町観光物産センターがオープンしました。当時の舟形駅は開業90周年を迎え、老朽化が進み改築の声が上がっていました。あわせて、町の医療体制の充実のために、医療サービスセンターが併設されました。

平成26年 駅舎の増築

平成26年3月、舟形町観光物産センターめがみと名称を変更し、駅舎を増築しました。飲食喫茶や物販ができる広々としたスペースが追加されました。

平成29年 リニューアルオープン

平成29年舟形町観光物産センターめがみがリニューアルオープンし、電車やバスの待合所としての役割だけでなく、各種催し物やイベントなどでもできる憩いやにぎわいの場として生まれ変わりました。

令和4年 舟形駅開業120周年

令和4年7月21日に舟形駅開業120周年を迎え、めがみちゃんの一日駅長、各種イベントなどで盛大に祝いを行いました。



- ① 大正時代の舟形駅前通り
- ② 舟形亜炭炭鉱所位置図
- ③ 猿羽根山地蔵尊参拝者で賑わう舟形駅
- ④ 舟形駅前亜炭貯蔵舎
- ⑤ 本坑選炭工場から舟形駅前亜炭貯蔵舎までの輸車路
- ⑥ 舟形駅無人化反対運動
- ⑦ 舟形駅運送取扱店の許可証
- ⑧ 舟形町観光物産センターリニューアルオープン
- ⑨ 舟形駅開業120周年イベントめがみちゃん一日駅長

